平成２５年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
学校名 （生徒数）	北海道名寄産業高等学校（ほっかいどうなよろさんぎょうこうとうがっこう）　（２９９人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒096-0035　北海道名寄市西５条北５丁目１番地
電話番号：01654-2-3066
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL:http//www.nayorosangyou.hokkaido-c.ed.jp

【研究成果のポイント】

○　研究課題番号：４高等学校
○　研究対象教科等：家庭科
○　研究のキーワード：学習意欲，コミュニケーション能力，職業観，地域産業
○　研究成果のポイント：

地域の生活関連産業と連携した効果的な見学や講習会等を，科目「生活産業基礎」の年間学習指導計画に適切に位置付けて実施することにより，生徒の学習意欲の向上が図られた。また，商品開発の学習では，ＰＤＣＡサイクルによる課題解決型の学習を行うことにより，生徒が主体的に学習に取り組むとともに，生徒の企画力やコミュニケーション能力の向上が図られた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

生活産業に対する消費者ニーズを把握し必要な商品を企画する能力や，生活の質の向上を図るために必要な知識と技術を習得させるための指導方法等の工夫・改善について

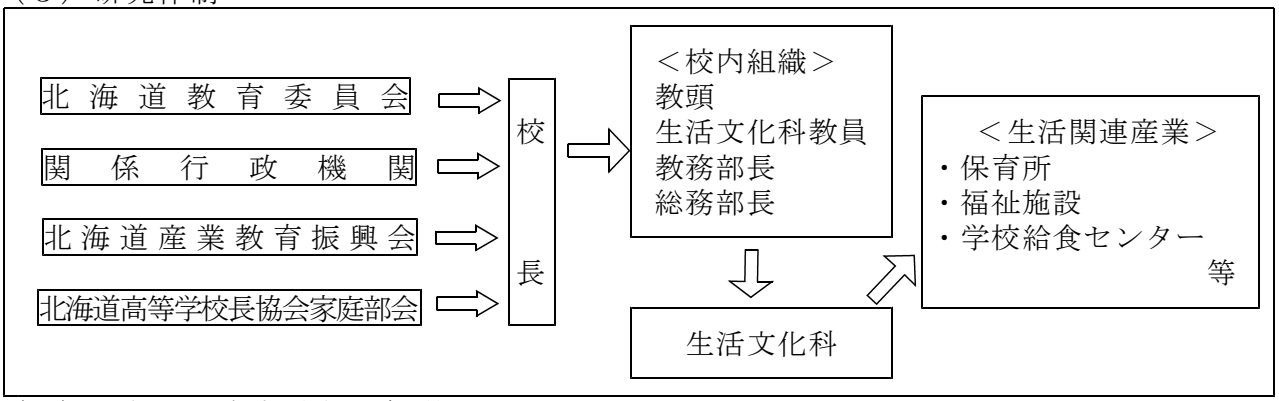
（２）研究主題設定の理由

本校は，平成21年４月に開校した，農業，工業，家庭の３つの大学科を有する学科集合型の専門高校であり，それぞれの学科の特色を生かした教育活動を展開している。また，日本最北の家庭に関する専門学科設置校である。

本校生活文化科は，地域と連携しながら，衣食住，保育，福祉等に関する職業に就くために必要な資質や能力を育成し，地域から求められ地域に貢献できる人材を育てることを目指している。第２学年までの生活産業に関する専門的な学習内容を基に，第３学年には，「食物コース」，「保育・福祉コース」の２コースを設定し，より専門性を深めることができるよう教育課程を編成している。

このような本校の特色を踏まえ，本研究では，家庭に関する専門学科の原則履修科目「生活産業基礎」において，生徒の学習意欲や進路意識の向上を図るとともに，生活産業に必要な知識・技術を習得し活用する意欲や態度の育成を図る授業づくりや指導方法等の工夫・改善について研究し，一層魅力ある学科の創造に寄与することをねらいとする。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	・成果を踏まえた授業の構築（学習内容及び教材研究） ・関連機関や地域との連携を図った実践 ９月：食育講習会　９月：商品開発特別授業　10月：給食センター見学 １月：保育所見学　２月：福祉関連産業講話 ・学習成果発表会，自己実現プラン発表会の実施 ・普及とまとめ（WEBページ等）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

ア　年間学習指導計画の作成・実施

学習意欲を高めるための指導内容・指導方法について研究し，他学科や他教科等と系統的・総合的に関連を図った年間学習指導計画を作成した。

イ　評価規準の設定及び評価方法の工夫

①　生徒に身に付けさせたい能力を明確にした評価規準の設定

具体例：課題解決能力，コミュニケーション能力，企画力，プレゼンテーション能力の評価規準を設定した。

②　設定した評価方法に応じた評価方法の工夫

具体例：指導と評価の一体化を図るため，ワークシート・レポート等を有効活用し，効率的な評価ができるように工夫した。

ウ　指導方法の工夫・改善

①　生徒の職業意識の調査・確認

②　情報通信ネットワークや業界紙等を活用した生活産業に関する調査

③　関連施設の現場見学や社会人講話等を通した，生活産業に関する職業の理解

④　関連施設等の見学や異世代交流体験を通じた実践的態度の育成

⑤　アンケート調査や聞き取り調査等に基づいた消費者ニーズの把握

⑥　商品やサービスの企画・検討（地産地消商品の開発等）

⑦　言語活動の充実を図った調査・関連施設の現場見学内容の発表や商品企画等のプレゼンテーション

⑧　自己実現や資格取得のための具体的学習プランの立案・プレゼンテーション

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

ア　学習内容の検討

生活産業に対する消費者ニーズを的確に把握し，必要な商品を企画する能力やマネジメント能力を育成する効果的な指導計画を作成した。

イ　指導方法の工夫・改善

地域を支える「産業人」を講師に招き，具体的に職業を理解させながら指導することで，生徒の勤労観と職業観の育成が図られた。また，地域の特産物を用いた商品開発の課題に取り組むことにより，生徒が地域を理解し，地元の更なる発展に貢献しようとする意欲や態度を育成することができた。

授業に言語活動の場面を多く設けるとともに，日常生活で積極的に関わる生徒同士にならないように班構成を工夫した。一人一人に役割を与えることで責任をもたせ，他の役割と連携することでコミュニケーション能力の向上が図られ，互いに協力し課題に取り組む姿勢や態度を育むことができた。

また，教師主体の授業展開とならないよう，生徒の思考過程を重視し，「なぜ」，「どうして」と生徒に問い続けることにより，課題解決に必要な思考力，判断力，表現力を身に付けさせることができた。

（２）研究成果の意義等

本研究では，授業にグループワークによる言語活動を活用する場面を多く設定した。生徒一人一人に役割を与えることで責任をもたせ，互いに協力することの大切さを学習させることができた。互いの良さを新たに知る機会となり，生徒相互の協力体制が築かれるとともに，他を思いやる気持ちの醸成にも繋がった。

１年生から商品開発等の課題研究を実施することにより，生徒相互の関わりが深まるとともに，住民として地域の振興に関わる意識が芽生えた。今回の実践研究で生徒が身に付けた課題解決能力や知識，技術を生かし，今後社会での実践に繋がるように，更に指導方法の工夫・改善に努めたい。

（３）指定期間終了後の取組

今後は，本研究で行った評価方法や指導方法を他の科目にも応用し，生徒が身に付けた知識や技術，コミュニケーション能力等の深化を図り，総合的に活用できるよう，指導内容や指導方法の工夫・改善を図る。また，本研究を通して地域との貴重な協力関係を構築することができた。この関係を更に発展させ，地域産業と連携し，生徒が産業界において生活産業を担える実践力を身に付けさせるとともに，地域の大学との関係も強化し，生徒の学習意欲の一層の向上を図りたい。